



保険収載されたメタルフリー臨床の極意 ～金パラからの脱却を目指して～

井萩歯科医院

高橋 英 登

従前より我が国の公的保険の中での歯冠修復材料の主たる材料は金パラです。その12%金パラジウム銀合金は我が国の公的保険の為に作られた、いわば国策合金です。残念なことに、その材料特性はあまり芳しいとは言えず、世界的に見ても我が国のみで使用されている事がそれを物語っていると思われまます。また金、銀、パラジウムといった投機的金属であるが故に、その価格的な変動も激しく、半年に一度の材料価格の見直し、それに伴う保険点数の増減が国そして我々歯科医師にも大きな負担を強いる事になっています。

我々、歯科医師の究極の目標は「患者から喜ばれ、感謝されること」です。この点からも残念なことに金パラを使った治療に関しての患者からの評価は決して芳しくなく、先生方の苦勞が報われない結果となっている事も事実です。

従前より金パラ代替合金の開発は検討課題として幾多の研究がなされていましたが、結局日の目をみずに終止しました。セラミックスフィラーを高分子バインダーで結合させる複合材であるハイブリッドセラミックスはエナメル質に近似した物性、そして歯冠色である点、またバラツキの少ない安定した物性によるブロック化が可能となった事からCAD/CAM冠への応用という形で保険収載され、金パラの代替歯冠修復材料として広く臨床応用されつつあります。

しかし、従前のように歯型上でペーストを築盛し、光重合（製品によっては熱重合も）により製作する従来型のハイブリッドセラミックス材料に比べ、大量生産可能な工業製品として加熱加圧して生産され未重合体が殆ど存在しないといったハイクオリティーな材料であるが故に、気泡の混入、口腔内における着色、変色、といった従来型の持つ欠点は大きく改善されてはいるものの、今度は別の問題点も浮上しつつあります。それは汚れが付かない → 接着が難しいという欠点です。故に、未重合体の存在に大きく期待する従前型の接着機序は使えず、CAD/CAM冠用ハイブリッドセラミックスブロックを接着するには、内在する多量のセラミックスフィラーを露出させ、それによって得られたセラミックスリッチ層に対し、シランカップリング処理を行って接着させる技法が求められます。

金パラのクラウンのセットのような従来型の無機セメントを用いた嵌合力による接着は禁忌であり、テクニカルエラーが入りやすい臨床であるが故にセラミックスに対する確実な接着技術の習得が臨床の成否を左右するといっても過言ではありません。

今回の講演では、4年前に保険収載された小白歯のCAD/CAM冠、そして一昨年12月より保険収載された下顎第一大臼歯のCAD/CAM冠、更に症例数は極端に少ないと思わ

れるものの、新規に保険収載された⑥5④④5⑥の高強度硬質レジンプリッジのトラブルを発生させないような症例選択法、形成・接着操作におけるキーポイントについて詳説する予定です。

高橋 英登 (たかはし ひでと)

【略 歴】

昭和52年 日本歯科大学歯学部 卒業
日本歯科大学歯学部歯科補綴学教室第Ⅱ講座入局

昭和54年 東京都杉並区に井荻歯科医院開設

昭和60年 金属と陶材の溶着に関する研究で歯学博士 授与

昭和62年 日本歯科大学歯学部歯科補綴学教室第2講座 講師

昭和63年 東京都国民健康保険診療報酬審査委員 (平成12年まで)

昭和63年 日本接着歯学会 編集委員 (平成12年まで)

平成5年 日本補綴歯科学会指導医 認定

平成7年 日本歯科医師会生涯研修講師 (平成7年度8年度)

平成13年 日本歯科医師会診療情報提供に関する検討委員会 委員 (平成14年まで)

平成13年 日本接着歯学会 理事 (平成21年まで)

平成15年 東京都杉並区歯科医師会 理事 (学術担当平成15年度16年度)

平成15年 東京都歯科医師会 保険指導員 (平成19年まで)

平成18年 日本歯科医師会社会保険委員会委員 (平成25年6月まで)

平成19年 東京都杉並区歯科医師会 会長 (平成25年6月まで)

平成21年 日本歯科医師連盟 常任理事 (平成25年6月まで)
日本歯科医師会国民歯科医療のあるべき姿委員会委員 (平成22年まで)

平成22年 日本接着歯学会 副会長 (平成26年3月まで)

平成23年 日本歯科大学校友会 常務理事 (平成26年12月まで)
杉並区歯科保健医療センター センター長 (平成25年6月まで)
日本歯科大学生命歯学部 客員教授 (現在に至る)

平成25年 東京都歯科医師連盟 会長 (平成29年6月まで)
日本歯科医師連盟 副会長 (平成27年6月まで)

平成27年 日本歯科医師連盟 会長 (現在に至る)

口腔機能発達不全症を有する小児の口腔管理を考える ～「未成熟型咀嚼」、「口唇閉鎖不全」などへの取り組み～



新潟大学 大学院医歯学総合研究科
口腔生命科学専攻 口腔健康科学講座

小児歯科学分野 准教授 齊藤 一誠

すでに完成された機能を獲得している成人では、既知の機能を維持・回復（リ・ハビリテーション）することで、日常生活に復帰することができます。また、老年期においては徐々に機能の低下を認めますが、機能の低下を緩やかにすること、言い換えれば以前に可能であった機能をなるべく維持することで、フレイル（高齢者においてよく認められる老年症候群）を防止していくことができます。しかしながら、小児は、身体の急激な成長変化により、それに合わせて様々な機能を発達・獲得していく必要があるのです。そのため、小児期の口腔機能の基本的な考え方として、機能の発達・獲得（ハビリテーション）が必須となってきます。

歯科疾患の疾病構造の変化により、むし歯治療などの硬組織形態に関する疾患-修復モデルから「食べる」、「嚥下する」といった口腔機能に関する障害-改善モデルへのシフトが徐々に進んできています。この様な背景から、平成30年4月より口腔機能発達不全に関する新病名の下、小児口腔機能管理加算が保険収載されました。「食べる」、「話す」、「呼吸する」などの機能をそれぞれの段階で評価し、口腔機能発達不全症に該当するかどうかを判断する必要があります。また、我々は小児期の咀嚼運動の発達について臨床研究を進めていますが、徐々にですが小児期の咀嚼運動の特徴が分かってきました。小児期では、哺乳・離乳食を経て通常食を食べることが可能になってきますが、まだ成人のような複雑で効率的な咀嚼運動は行うことができません。咀嚼の発達初期には「未成熟型咀嚼」と呼ばれる咀嚼運動が散見され、徐々に通常の咀嚼へと発達を遂げます。しかし、何らかの原因により機能の発達が阻害されると、徐々に機能不全が表れてきます。そこで、「口腔機能発達不全症」管理計画書の評価項目について、ポイントを挙げて解説し、また、いくつかの症例を通し小児期の口腔機能発達不全について理解を深めたいと思います。

日常的な「お口ぼかん」（口唇閉鎖不全）は、近年多くのマスメディアにも取り上げられる口腔に認められる症状の一つで、口腔機能に関する発達不全の1つです。小児期の「お口ぼかん」は、歯列咬合や顎顔面の成長発育へ悪影響を及ぼすことが示唆されています。また、「お口ぼかん」の原因の1つである口呼吸は全身疾患との関連性が散見されるようになり、医学的、公衆衛生的な観点からも近年着目されてきています。

個々の原因は不明ながら共通の病態（口呼吸）を示し、多くの弊害と関連性が示唆されているという特徴を持つことから、『口呼吸症候群』と定義することができます。そこで、本講演では口呼吸と口唇閉鎖不全について、病因論、疫学、症状などの報告などを含め解説を加えるとともに、口唇閉鎖不全の改善に向けた取り組みについて解説を加えたいと思います。

また、通常の小児の歯科治療において、開業医の先生方の中には大なり小なり疑問に思うことがあるのではないのでしょうか。そこで、本セミナーでは、小児歯科における診療の原則や臨床のヒントについても症例を提示しながら説明したいと思います。

【経歴】

1999年 九州大学 歯学部 歯学科 卒業
2003年 九州大学 大学院歯学研究科 歯学臨床系専攻 博士課程 修了
2005年 鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科 口腔小児発達学分野 助手
2007年 鹿児島大学 医学部・歯学部附属病院 発達系歯科センター 小児歯科 講師
2008年 米国 Baylor College of Dentistry. Visiting Researcher
2010年 鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科 小児歯科学分野 准教授
2012年 新潟大学 大学院医歯学総合研究科 小児歯科学分野 准教授
現在に至る

【学会活動】

日本小児歯科学会 平成30・31年度 研究倫理審査委員会副委員長
日本小児歯科学会 平成30・31年度 倫理委員会・利益相反委員会 委員
日本小児歯科学会 北日本地方会 平成30・31年度 監事
日本小児歯科学会 評議員
日本顎口腔機能学会 評議員
日本臓器保存生物医学会 評議員

【受賞歴】

2003年10月1日 平成15年日本顎口腔機能学会奨励賞
2008年6月12日 有限責任中間法人 日本小児歯科学会 平成19年日本小児歯科学会奨励賞
2011年11月28日 一般社団法人 日本小児歯科学会 日本小児歯科学会学術賞“LION Award”
2015年5月21日 一般社団法人 日本小児歯科学会 平成26年度 町田賞研究奨励賞
2018年5月10日 公益社団法人 日本小児歯科学会 平成29年度 町田賞優秀論文賞
2018年5月10日 公益社団法人 日本小児歯科学会 平成29年度 PEDIATRIC DENTAL JOURNAL 優秀論文賞



口腔外科領域における感染対策の 重要ポイント

浜松医療センター 副院長兼感染症内科長

矢野 邦夫

歯科・口腔外科領域においては、血液や体液が周辺環境に飛散する状況で診療がおこなわれている。スタッフが血液飛沫に曝露する可能性があり、環境表面に付着している血液に触れる可能性も高い。また、使用している器具には鋭利な物が数多くあるので、それらによる針刺し切創の危険性もある。さらには、患者の口腔に近いところで業務をしているため、インフルエンザや結核などの飛沫感染や空気感染する病原体に曝露することもある。このようなことから、歯科・口腔外科での診療における感染対策は極めて重要である。それにも拘わらず、患者から医療従事者を守るための感染対策が十分とはなっていない。また、使用済の医療器具の滅菌や消毒が不十分であることによる感染から患者を守るための感染対策も不十分と言わざるを得ない。

この20年間に、日本の感染対策は大きく進化した。それは新しい知見が得られ、エビデンスが積み重なった結果であるが、米国疾病管理予防センター（CDC：Centers for Disease Control and Prevention）のガイドラインの影響も強く受けている。その結果、これまで正しいと思われていた感染対策が推奨されなくなり、これまで推奨されていなかった感染対策が強く推進されるという現象を経験することとなった。CDCは既に様々なガイドラインを公開しており、それらは極めて科学的である。具体的には環境制御、インフルエンザ、血液体液曝露、麻しんなどのウイルスなどに関して包括的かつ網羅的に記述している。

環境制御では、環境表面に付着している病原体のヒトへの伝播経路はその表面に触れた「手」であることから、手指衛生が極めて重要であり、手指の高頻度接触表面に重点をおいた対策が必要である。インフルエンザ対策ではウイルスの伝播様式について解説するとともに、外来や病室の換気が重要であることも付け加える予定である。また、インフルエンザワクチンについての誤った理解をするスタッフが散見されるのでこれについても言及したい。針刺しした場合の対応について述べるとともに、最近問題となっている麻疹などのウイルス感染症についても簡単に触れる予定である。

本講演の内容が歯科・口腔外科領域で勤務するスタッフに役立つことを希望するものである。

【略 歴】

1981年 3月 名古屋大学医学部卒業
1981年 4月 名古屋掖済会(エキサイカイ) 病院
1987年 7月 名古屋第2 赤十字病院
1988年 7月 名古屋大学第一内科
1989年12月 米国フレッドハッチンソン癌研究所
1993年 4月 浜松医療センター血液科
1996年 7月 米国ワシントン州立大学感染症科(エイズ臨床短期留学)
米国エイズトレーニングセンター臨床研修終了
1997年 4月 浜松医療センター感染症内科長
2008年 7月 副院長

医学博士、産業医、内科認定医、
浜松医科大学臨床教授、
三重県立看護大学客員教授、
ICD、感染症専門医・指導医、
血液専門医、輸血専門医、
エイズ学会 認定医・指導医

【著 書】

ねころんで読めるCDCガイドライン(メディカ出版)
感染対策のレシピ(リーダムハウス)
エビデンスに基づいた抗菌薬の適正使用マニュアル(メディカ出版)
エビデンスに基づく院内感染のための現在の常識(永井書店)
HIVマニュアル(日本医学館)
ねころんで読める抗菌薬(メディカ出版) など多数



Breathing vivid life into new creation

— 審美修復治療における IPS e.max system の活用 —

Ray Dental Labor

都 築 優 治

昨今、審美修復治療における治療プロセスの確率と材料学の発展は、その修復結果に多大な恩恵をもたらしている。また、審美歯科に対する患者のデンタル IQ の向上に伴い、より審美に対する要求も高まっているように感じる。

しかしながら、理想的な審美の獲得には時に様々な治療オプションを追加する必要性があり、審美修復行程に辿り着くまでに多くの問題を優先的に解決しなければならないような状況も存在している。そのため、適正な治療ステップを踏めないような場合は、当然ながら妥協的な結果を招いてしまうことも少なくない。そしてそこには、歯科従事者としてのジレンマも生じ、患者の持つゴールイメージともしばしば乖離してしまう現状もある。

我々歯科技工士にとって、幾多の臨床ケースに対して常に最善の技術アプローチを行うためには、治療プロセスの把握と使用材料への熟知が欠かせない。これは、オールセラミック材料の発展にともない、本来相反するはずの『審美』と『強度』の2つの観点が共存せざるを得ない現象が起こり、使用材料の選択肢が複雑化してしまっているからである。

そのなかでも、高い強度と審美再現性を兼ね備えた IPS e.max システムを例にあげるとすれば、二ケイ酸リチウムを原料としたプレスセラミックとの高い接着性を生かした天然歯構造に迫るミニマルな臨床対応も可能となっている。

今回、審美修復治療のなかで高い臨床成果を得るための包括的治療コンセプトの提案から、困難を極めた補綴治療まで例にとり、IPS e.max システムを最大限に活用した臨床対応を自身の技工コンセプトも交えながら詳しく紹介してみたい。

【略 歴】

2001年 新大阪歯科技工士専門学校 専攻科 卒業

2005年 茂野歯科医院 勤務

2007年 伊藤歯科医院 勤務

2009年 Ray Dental Labor 設立、Ivoclar Vivadent 社公認インストラクター

【執筆文献】

- ・ QDT 2015vol 38、2016vol 39 (米国)
- ・ QDT Art&Practice 2014vol 39 May ~ Sep
- ・ Journal of Cosmetic Dentistry 2016 Fall vol 32

①15:00~15:45 プレミアムプラスジャパン(株)

これからの咬合採得、咬合調整

大阪大学大学院歯学研究科 特任教授 前田 芳信

歯科治療においては、上下顎の歯の接触関係、咬合に係ることが無い場合は非常にまれだと言っても過言ではありません。咬合接触は静的な状態と動的な状態を的確に記録して評価することが不可欠なのですが、これまでは両者を簡便に行うことは困難でした。

静的な咬合接触状態に関しては、まずは正確に咬頭嵌合位を記録することが重要になりますが、そのためには操作性と再現性にすぐれた咬合採得材料が必要になります。このような場合 私はクリアバイトを用いています。それは操作性、再現性にすぐれているだけでなく、硬化後に口腔内で視覚的クリアバイトを通して接触状態を確認することができるからです。またこのバイトを用いることで 直接法により支台歯形成後にテンポラリーを製作することもできるからです。

動的な咬合接触状態に関しては、これまでは咬合紙を用いて結果的に接触した部位を判定してきましたが、現在はオクルセンスを用いて評価しています。これにより咬頭嵌合位、側方運動時、前方運動時の接触の時間的な推移を評価することができるだけでなく、有歯顎においては咀嚼運動経路を再現した動きの中での干渉部位や、有床義歯でのバランスングコンタクトの状態が把握できると考えています。

今回はこれらの臨床における応用例と使用上の注意点についてお話ししたいと思います。

②15:45~16:30 YAMAKIN(株)

～患者さんの満足度を高めてみませんか？～

覆髄から充填まで「TMR シリーズ」によるイノベーション

YAMAKIN(株) 開発部 有機材料開発課 主幹研究員 坂本 猛

MTA セメントは、抗菌性、封鎖性、生体親和性、硬組織誘導性などで優れた性質を有しており、薬事承認されている直接覆髄のほか、穿孔封鎖、逆根管充填などさまざまな用途に応用検討されている。しかし、MTA セメントは、粉末と水との練和が難しいことや硬化時間が長いことなどの課題がある。さらに、MTA セメントは臨床使用において経時的に黒く変色することがあると報告されている。

本講演では、北海道医療大学と YAMAKIN 株式会社との共同研究により開発された「TMR-MTA セメント」の5つの特徴について紹介させていただく。特徴①：球状シリカ微粒子を粉末に添加することでベアリング効果が得られ、粉末と水との親和性を大幅に改善している。特徴②：硬化が早く、充填後に水分補給がなくても十分に硬化するため、覆髄直後にガラスイオノマーでの仮封も可能である。特徴③：本製品には X 線造影材として、黒変の原因の一つと言われている酸化ビスマスの代わりに、化学的に安定なジルコニア微粒子を用いている。特徴④：硬化後の圧縮強さは1日後約90 MPa であり、1週間後約140MPa まで向上している。特徴⑤：使いやすさを重視し、2種類の包装形態（3g×1本、0.2g×3本）をラインアップしている。また、MTA セメントと CR の接着性に注目して、MI 治療のコンセプトにより開発された新しい CR システム「TMR シリーズ」の TMR- アクアボンド0 と TMR- ゼットフィル10. についても紹介させていただく。

①10:00~10:45 ウエルテック(株)

歯肉マッサージ実践セミナー

日本歯周病学会認定歯科衛生士 宮本 さくら

私たち歯科医療従事者は、プロービングや口腔内写真、X線写真などの各種資料から得られた情報を患者さんと共有し、モチベーションを上げながら治療に積極的にかかわってもらえるように導いていくことが大切です。

辛い、痛い治療で来院が途絶えてしまっただけでは治せるチャンスを失ってしまいます。ブラッシング技術だけを教えても正しいブラッシングを患者さんの生活に定着させることは難しく、患者さんに良いタイミングで‘気づき’を与えることが患者指導の1番のポイントだと思います。短時間で効果を実感でき、患者さん自身がやる気になってくれるアプローチが必要です。

私の臨床経験より、歯肉マッサージを導入することによって、患者さんの予防意識が高まることを実感しました。気持ちの良いマッサージでリラックスしたり、唾液線マッサージで唾液分泌促進を期待するだけではありません。歯肉マッサージを通して患者さんのニーズに応じた提案をすることで、自身の口腔内に非常に興味をもっていただけます。できるだけシンプルに、気持ち良い！磨きたい！と思えるようなホームケアの提案を続けていき、行動や習慣の変容につなげていくことが重要です。短い時間ではありますが、リペリオを用いて行う消炎・歯周組織回復作用や唾液分泌促進を期待した歯肉マッサージの効果的な方法と、誰にでも簡単に継続可能なホームケアの提案についてお伝えしたいと思います。

②10:45~11:30 (株)ビーブランド・メディコーデンタル

口腔粘膜治療剤「オルテクサー口腔用軟膏0.1%」最近の話題
日本で行われているフッ化物応用 ―フッ化物洗口について―

(株)ビーブランド・メディコーデンタル 本田 裕之

口腔粘膜治療剤として用いられる成分は数種あるが、その一つであるトリアムシノロンアセトニドを有効成分とするケナログ口腔用軟膏0.1%は、製造販売元であるブリストル・マイヤーズスクイブ株式会社より2018年6月を目処に販売中止となることが発表されている。当社は、トリアムシノロンアセトニド口腔用軟膏として唯一のジェネリック医薬品「オルテクサー口腔用軟膏0.1%」を今後も継続販売していく予定であり、製剤の特徴について紹介する。

また、う蝕予防フッ化物洗口剤についても説明する。代表的なフッ化物応用法としては、プロケアのフッ化物歯面塗布や、セルフケアのフッ化物配合歯磨剤の使用が挙げられるが、フッ化物洗口は専門家の指導のもと行われるセルフケアであり、最も効果の高い方法で患者様自身がう蝕の予防を実行できる点が特徴である。従来、フッ化物洗口は幼稚園・保育園・小中学校等の主に小児を中心とした集団応用の取り組みが推進されてきた。しかし、近年は成人のう蝕や、根面う蝕に対する使用も注目されてきている。今回は、フッ化物洗口剤の使用法や利点について講演する。

③11:30～12:15 (株)モリタ

モリタの提案する“最新エンド治療”

～臨床で使える！トライオートZX2を用いた効率的な穿通・グライドパス根管形成法～

(株)モリタ 太田垣 隆

2017年春に発売したトライオートZX2は、今までのエンド用モーターにはない穿通・グライドパスを効率よく行える専用モードを搭載した根管拡大形成用モーターです。湾曲した根管でも根管を逸脱することなく穿通・グライドパスを行えるOGP機能、折れやすいNi-Tiファイルに加わる負荷を最小限に抑え、尚且つ確実にファイルを根尖方向に進め、高い切削効率を求めたOTR機能を搭載しています。

また、世界的にご評価頂いている根管長測定器ルートZXを内蔵し、ファイル先端位置を測定しながら根管形成を行い先生方の根管処置をサポートいたします。

講演では、トライオートZX2をうまく臨床現場で使用できるように、穿通・ネゴシエーションの考え方、適応症や禁忌症、使用するファイル、使用上のコツをご紹介します。聴講いただく先生方に分かりやすくご説明し、モリタで取り扱うエンド関連商品も合わせてご紹介いたします。

マイクロスコープを含むエンド関連商品はモリタブースでも展示していますのでぜひお立ち寄りください。

④12:15～13:00 ライオン歯科材(株)

菌コントロールとホストケアに注目した歯周病予防歯磨剤

ライオン歯科材(株) 統括部 製品マネジメント室 福田 一郎

歯周病に罹患すると、主に①歯周病原菌への感染、②歯周病原因子の歯周組織内への侵入、③炎症の発生、④歯周組織の破壊がおこります。また、歯周病は歯周組織の抵抗力とバイオフィルムの病原性のバランスが崩れると進行するといわれています。

従来から①歯周病菌への感染の対策としてバイオフィルムの殺菌（菌コントロール）が注目され、多くの歯周病予防製品に殺菌成分が配合されています。また、③炎症の発生に対して歯肉の炎症を抑制する抗炎症剤も歯周病予防製品に配合されていますが、②歯周病原因子の侵入や④歯周組織の破壊については十分な対応がされていない状況です。

歯周病発症のメカニズムを考えると、菌コントロールに加えて歯周組織のケア（ホストケア）の機能が重要であると考えられます。当社でビタミンEに歯肉上皮バリア機能の強化作用（歯周病原因子の侵入抑制）及び歯肉組織修復作用があることを見出しました。その知見を基に、今回、IPMPによる菌コントロールに加えて、ビタミンEによるホストケアの機能を持つ歯周病予防歯磨剤を開発いたしましたので、製品の概要と機能についてご説明させていただきます。

愛知県歯科医学大会 ワークショップ

(一社)愛知県歯科医師会

- | | |
|----------------------|-----------------------------|
| 「女性委員会」コーナー | 「地域保健部Ⅰ(母子歯科保険・学校歯科保健)」コーナー |
| 「地域保健部Ⅱ」コーナー | 「防災対策部」コーナー |
| 「口唇閉鎖力測定器りっぶるくん」コーナー | 「口腔水分計ムーカスと細菌カウンタ」コーナー |
| 「口腔機能検査 機器展示」コーナー | 「医院継承講演会」 |

(一社)愛知県歯科技工士会

- 「テーブルクリニック」「(一社)愛知県歯科技工士会カービングコンテスト優秀作品展示」
 「ADTAトレーニングセンター受講生作品展示」

東海歯科用品商協同組合企画講演

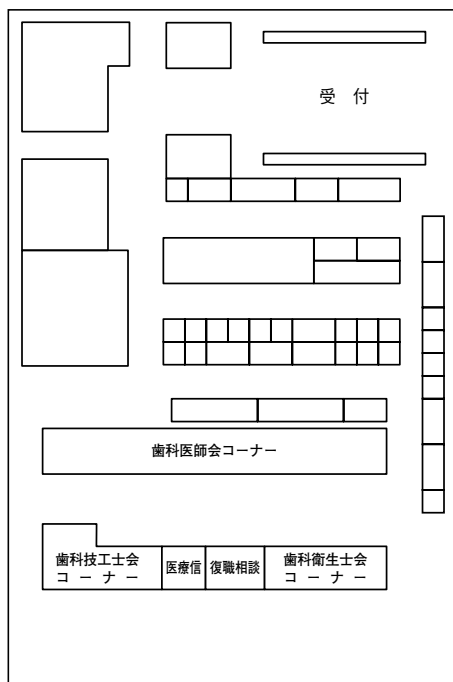
- 15:00 ①プレミアムプラスジャパン(株)「これからの咬合採得、咬合調整」
 15:45 ②YAMAKIN(株)「～患者さんの満足度を高めてみませんか?～
 覆髄から充填まで「TMRシリーズ」によるイノベーション」

中部日本デンタルショー

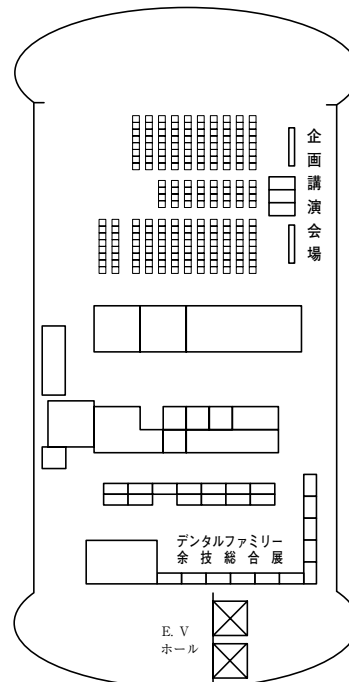
- 「歯科に関する本なんでもコーナー」
- | | | |
|---------------|----------------|--------------------|
| ①インターアクション(株) | ②クインテッセンス出版(株) | ③(株)ヒョーロン・パブリッシャーズ |
| ④医歯薬出版(株) | ⑤(一財)口腔保健協会 | ⑥(有)医学情報社 |
| ⑦東京臨床出版(株) | ⑧(株)永末書店 | ⑨(株)デンタルダイヤモンド社 |
| ⑩わかば出版(株) | ⑪(株)日本歯科新聞社 | |

配置図

2階 第1ファッション展示場



3階 第2ファッション展示場



愛知県歯科医学大会 ワークショップ

(一社)愛知県歯科医師会

- | | |
|----------------------|-----------------------------|
| 「女性委員会」コーナー | 「地域保健部Ⅰ(母子歯科保険・学校歯科保健)」コーナー |
| 「地域保健部Ⅱ」コーナー | 「防災対策部」コーナー |
| 「口唇閉鎖力測定器りっふるくん」コーナー | 「口腔水分計ムーカスと細菌カウンタ」コーナー |
| 「口腔機能検査 機器展示」コーナー | 「医院継承講演会」 |
| 「(一社)愛知県歯科技工士会講演会」 | 「開業相談・歯科衛生士復職支援」コーナー |

(一社)愛知県歯科技工士会

- 「テーブルクリニック」 「(一社)愛知県歯科技工士会カービングコンテスト優秀作品展示」
「ADTAトレーニングセンター受講生作品展示」

(公社)愛知県歯科衛生士会

- (公社)愛知県歯科衛生士会学術大会「第13回会員ポスター発表」

東海歯科用品商協同組合企画講演

- 10:00 ①ウエルテック(株)「歯肉マッサージ実践セミナー」
10:45 ②(株)ビーブランド・メディコーデンタル「口腔粘膜治療剤「オルテクサー口腔用軟膏0.1%」最近の話題
日本で行われているフッ化物応用 ―フッ化物洗口について―」
11:30 ③(株)モリタ「モリタの提案する“最新エンド治療”
～臨床で使える！トライオートZX2を用いた効率的な穿通・グライドパス根管形成法～」
12:15 ④ライオン歯科材(株)「菌コントロールとホストケアに注目した歯周病予防歯磨剤」

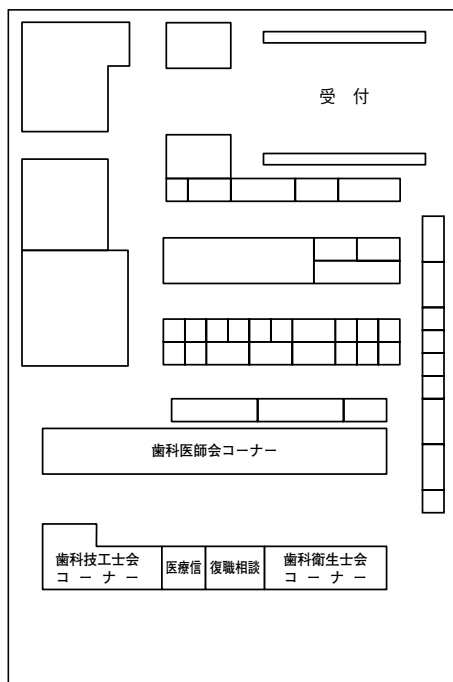
中部日本デンタルショー

「歯科に関する本なんでもコーナー」

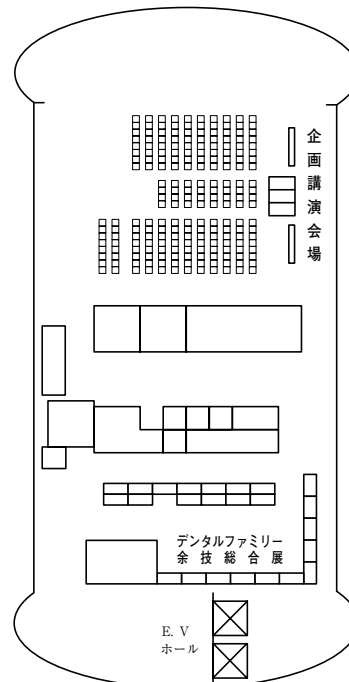
- | | | |
|---------------|----------------|--------------------|
| ①インターアクション(株) | ②クインテッセンス出版(株) | ③(株)ヒョーロン・パブリッシャーズ |
| ④医歯薬出版(株) | ⑤(一財)口腔保健協会 | ⑥(有)医学情報社 |
| ⑦東京臨床出版(株) | ⑧(株)永末書店 | ⑨(株)デンタルダイヤモンド社 |
| ⑩わかば出版(株) | ⑪(株)日本歯科新聞社 | |

配置図

2階 第1ファッション展示場



3階 第2ファッション展示場



「女性委員会」コーナー

愛知県歯科医師会が取り組んでいる託児、家事代行、介護サービスの支援、また出産時の会費免除システムをご存知でしょうか。

私たち女性歯科医師の占める割合は、歯科医師総数に対して平成2年では、13.8%でしたが、平成28年には23.3%となり、約1.7倍増加しています。さらに歯学部に入学者の中で女性が占める割合も年々増加しており、今後、歯科医師全体のうち、女性歯科医師が占める割合が増加していくことは明らかです。

女性歯科医師は、結婚、妊娠出産、育児、家事、介護など、それぞれ変化するライフステージに応じて多様な働き方をしなくてはなりません。女性委員会では女性歯科医師が働きやすい環境づくり、自身のスキルアップ、また、日常の診療以外でも充実した時間を過ごせるように、様々なサポートができないかと検討を重ねています。様々な年代、立場の女性歯科医師の皆様のご意見を伺いたく、昨年度に引き続き今年度もアンケートを実施させていただきます。是非お立ち寄り下さい。

「地域保健部 I (母子歯科保健・学校歯科保健)」コーナー

<0歳児からの口腔機能育成>

身体とともに口腔の成長変化が大きな0歳児の口腔を育成するには、歯が萌出する前から歯科医師が関わるのが重要とされるようになってきました。今回0歳児からの口腔機能育成の取り組み方について紹介します。

<学校歯科保健「歯科健康診査基準の標準化に向けて」>

学校歯科保健は「保健教育」「保健管理」を適切に行うことにより児童生徒、職員の健康保持増進に努めることが大きな目的です。しかしその実現には家庭や地域との連携を緊密にする「組織活動」の充実が不可欠です。そのためには学校における歯科健康診査における検査基準の標準化を図り、地域のかかりつけ歯科医との連携を円滑に行うことも重要な課題です。そこで、「C、CO、G、GO」「不正咬合、不正歯列」等の検出基準についての統一を図るための展示を行います。

<幼稚園調査「年長児における生活習慣が口腔機能に与える影響について」>

近年、メディアと接する時間や睡眠時間の長短などの生活習慣が、児童らの身体に影響を与えていることが報告されています。生活習慣の基礎を作る幼児期に、口腔内の診査指導だけでなく、生活習慣と合わせた保健指導を行うことが、幼児の健全な成長発育を見守る園歯科医として求められています。今回、県内の幼稚園で年長児を対象に、幼児の生活習慣が口腔内環境、口腔機能にどのような影響を及ぼしているのかを調査し、その結果を第82回全国学校歯科保健研究大会においてポスター発表しました。そのポスター展示を行いますので、ご来場いただければ幸いです。

「地域保健部Ⅱ」コーナー

「歯科衛生士の派遣を主体とした在宅歯科医療連携室事業の活動報告」

平成22年度から開設された愛知県歯科医師会の在宅歯科医療連携室では、施設等からの要請に基づき歯科衛生士を派遣し、口腔ケアに関する指導、講習等の実施および在宅歯科診療の情報提供を行ってきた。今回、過去の実績を踏まえ課題と対策を検討した。当連携室への依頼は講習が最も多く、内容は口腔ケア、摂食嚥下が多かった。特別養護老人ホーム等の施設からの依頼件数は増加したが、在宅歯科診療自体につながっているかは不明であった。当連携室へ依頼された講習内容は、現在の介護現場が歯科に求める内容を反映していると考えられた。

「愛知県における医療介護連携のための ICT ツールの普及状況」

現在多くの市町村で、ICT (Information and Communication Technology) ツールを使用した医療介護連携システムが整備されてきている。今回、医療介護連携用 ICT ツールの利用状況の把握を目的として、介護職員を対象とした口腔ケア研修会の受講者117名を対象に質問票調査を行った。実際に ICT ツールを利用していると答えた回答者は3%にとどまったが、49.2%のものが ICT による連携は有用であると回答しており、現在のところ利用度は低いが、期待感を持たれている結果であった。

「防災対策部」コーナー

今年は6月の大阪北部地震、7月に集中豪雨、9月には北海道胆振東部地震、また台風21号による被害等日本各地で大規模災害が起こっています。

北海道胆振東部地震では、道内全域で停電が起き、基幹病院でも通常の救急対応が行えないなどの状態が起きました。

災害は時として想像もつかないような事態に陥ることがあります。全てを予測し準備しておくことは出来ませんが、日頃より防災に対する心構えを持っていただくようお願い致します。

防災対策部では南海トラフ地震を想定した愛知県総合防災訓練に参加し、緊急歯科診療所の訓練や口腔ケア啓発活動を実施しております。また、「診療所の減災」に役立てていただけるよう「防災ガイド」を発行しております。

愛知県警察歯科医会では身元確認の際デンタルチャートが誰でも記載できるように「身元確認捜査協力ガイド・マニュアル」を発行し、各警察署に配備しております。正確な書類作成をお願いします。

「口唇閉鎖力測定器りっぷるくん」コーナー

共催：(株)松風

「りっぷるくんとりっぷるとれーなーによる口輪筋トレーニングとその評価」

近年口唇閉鎖習慣を持たない小児が増加傾向にあり、口唇閉鎖力の弱い小児は鼻呼吸できずに口呼吸することが知られています。日常的な口呼吸は、口腔領域に悪影響を及ぼすとされています。口唇閉鎖力が弱い小児の機能回復を図るには、まず術者が患者の口唇閉鎖力を把握することから始まります。そこで使いやすく、正確な診断情報を術者に与えることが可能な測定器を目指し、日本小児歯科学会と共同で口唇閉鎖力測定器「りっぷるくん」開発をし、2015年9月に発売いたしました。また、口唇閉鎖力の評価だけでなく機能回復のために、口輪筋トレーニング器具「りっぷるとれーなー」を2016年7月に発売いたしました。

筋力トレーニングの効果は、負荷が一定であれば現状維持、また、負荷を増やせば筋力増強につながります。元々ボタンプルトレーニングは、患者が口腔外にボタンが出ないように踏ん張る力と術者が引張る力が自然に増える効率の良いトレーニング方法です。「りっぷるとれーなー」はボタンプルトレーニングを自宅で安全に行える器具となっております。

今後、小児歯科分野以外の分野でも口唇閉鎖力の研究が進み、口腔機能の回復に両製品が貢献できれば幸いです。

「口腔水分計ムーカスと細菌カウンタ」コーナー

共催：(株)ヨシダ

口腔乾燥症（ドライマウス）は、患者数800万人・推定患者数3000万人ともいわれ、約15人に1人が罹患している可能性があり、現代病になっています。

口腔機能低下症の検査項目としても口腔乾燥が入り注目も集まっています。しかし、口腔乾燥症は、見た目などでは判断しづらく患者様の訴えが正確に伝わりにくくなっています。従来の測定・診断方法では、時間と手間、患者様への負担が大きくなっていました。

口腔水分計ムーカスをご使用いただくことで患者様の症状、全身状態に関わらず時間をかけずに安全に診断可能となっておりますので、ご紹介をさせていただきます。

口腔乾燥症と細菌の増殖も関係性がございしますので、関連製品として誰でも簡単に測定できる細菌カウンタをご紹介いたします。細菌カウンタは幅広い分野でもご活用いただける商品となっております。

またドライマウスと診断した後の口腔ケア製品もご紹介させていただきます。

「口腔機能検査 機器展示」コーナー

共催：(株)ジーシー

超高齢社会となった我が国において、高齢になっても元気で生活していくことが望まれますが、近年、滑舌低下、食べこぼし（口から食べ物をこぼす）、うまく呑み込めない、僅かなむせ、噛めない食品が増えるなど些細な口腔機能低下により「オーラルフレイル」が始まります。「オーラルフレイル」が発端で、全身の衰弱な状態を招きます。「オーラルフレイル」にならないようにするには口腔機能を保つことが大切です。

平成30年度の診療報酬改定で口腔疾患の重症化予防、口腔機能低下への対応、生活の質に配慮した歯科医療の推進の観点より、口腔機能検査が新設され、適用拡大もされました。

この診療報酬改定にかかわるジーシー製品では咀嚼能力検査装置「グルコセンサーGS-II」、咬合圧検査での「デンタルプレスケールII」ならびに咬合力解析ソフト「バイトフォーアナライジングセット」と舌圧測定器「JMS舌圧測定器」が対象となりました。

今回、本ブースでは上記製品の展示およびそれぞれの製品を実体験いただけるようご準備しております。この機会にぜひお立ち寄りいただきまして体験いただき、ご採用検討いただけましたら幸いです。

「医院継承講演会」

共催：(株)ヨシダ

知っておきたい承継開業のメリット・デメリット ～ケース別承継開業～

税理士 安田 竜也

歯科医師を取り巻く環境が厳しいといわれている中で、診療所に従事する50歳以上の歯科医師の割合は半数を超えているというデータがあります。院長先生が高齢化する一方で多くの歯科医院では医院承継への取り組みが放置されているのが現状です。

医院承継は、診療所の資産だけでなく、診療方針や患者様、スタッフなど引き継ぐべき財産が多く存在し、またその形態も様々であり、一朝一夕に後継者に引き継ぐことは困難です。

セミナーでは、個人事業の場合や医療法人設立の場合など承継のケース別にそのメリットとデメリットをわかりやすく簡潔にご説明します。院長先生のハッピーリタイアと後継者のスムーズな承継開業をするためには必聴のセミナーです。

健口長寿 — 標準予防策に基づいた入れ歯クリーニング —

日本の高齢者人口は平成29年10月1日現在3,515万人となり、総人口に占める高齢者の割合(高齢化率)は27.7%と、義歯の需要増が予見される超高齢社会に突入しました。

平成23年以降、日本人の死亡原因の第三位は肺炎となり、罹患者の95%は65歳以上とされています。起炎菌のほとんどが口腔内常在菌であり、口腔カンジダ菌種であるとされており、「口腔ケア」の重要性が認識されています。

私たちが製作した義歯は咀嚼機能の回復、認知症予防、低栄養予防、転倒防止など全身状態の改善に関わる補綴装置でありながら、残念なことに口腔カンジダ菌を主体としたデンチャープラークの温床となっている現状があります。

そこで、義歯製作をする私たちが標準予防策に基づいて専門的「入れ歯クリーニング」を実施し、啓発することは、高齢者の方に快適で健康な生活を送っていただくための大切な「口腔ケア」であり、健口長寿につながると考えています。

はやみ たけし
速水 毅

【略歴】

1982年3月 三重県立公衆衛生学院 歯科技工学科卒業
1982年4月 松阪市民病院 歯科口腔外科勤務
2009年4月 松阪市民病院 医療技術部 歯科口腔外科室技士長(現在)
2001年4月～2009年3月 三重県立公衆衛生学院 非常勤講師

【学会・所属機関】

公益社団法人日本歯科技工士会 日技認定講師
公益社団法人日本口腔インプラント学会 インプラント専門歯科技工士
一般社団法人日本歯科技工学会 専門歯科技工士・代議員 東海北信越支部 理事(学術)
一般社団法人日本摂食嚥下リハビリテーション学会 会員

「歯科衛生士復職支援」コーナー

<「愛知県歯科衛生士バンク」つないでネット 登録のお願い!>

歯科衛生士の就業率は46%（看護師は約70%）と低く、一端離職すると希望はあっても、条件に合う職場が見つからず、復職が難しいとされています。愛知県歯科医師会では歯科衛生士再就業支援事業にて、受け皿となる歯科医院に働きやすい職場を提供するよう、働き方改革の実行を提唱しています。また、歯科医院と歯科衛生士をつなぐ登録バンクとしてのホームページ「歯科衛生士バンク」つないでネットを立ち上げ、登録者には、カムバック研修会申込、復職相談（無料職業紹介所利用）、メールによる情報配信を行い、復職を支援しています。これらの取組みは、同時に離職防止にもつながっており、事業の活性化のために、現在就業中の方や歯科衛生士養成校の学生さんにもバンク登録をお願いしています。3か月に1回配信されるメルマガでは、毎回愛知県内の歯科衛生士養成校の先生のコラムを読む事ができるので、ぜひ登録して下さい。ブースでは「登録受付」に加えて、「よろずお悩み相談」、Hu-Friedy社による「グレーシーキュレットの正しい使用法」ミニレクチャーも行っています。ぜひお立ち寄りください。

**口腔機能検査講演会・口腔乾燥症講演会・口唇閉鎖力講演会・
医院継承講演会・技工士会講演会**

(於：本館棟2F 第1ファッショ展示場内 特設会場)

日	時 間	企 業 名	内 容
2月16日(土)	14:00～14:30	(株)G C	口腔機能検査
	14:40～15:10	(株)ヨシダ	口腔乾燥症
	15:20～15:50	(株)松風	口唇閉鎖力
	16:00～16:30	(株)ヨシダ	医院継承
2月17日(日)	9:30～10:00	(一社)愛知県歯科技工士会	入れ歯クリーニング
	10:10～10:40	(株)松風	口唇閉鎖力
	10:50～11:20	(株)G C	口腔機能検査
	11:30～12:00	(株)ヨシダ	医院継承
	13:00～13:30	(一社)愛知県歯科技工士会	入れ歯クリーニング
	13:40～14:10	(株)ヨシダ	口腔乾燥症
	14:20～14:50	(株)G C	口腔機能検査
	15:00～15:30	(株)ヨシダ	医院継承

(公社)愛知県歯科衛生士会学術大会 「第13回 会員ポスター発表」

本会は歯科衛生士の資質向上を目的に研修事業や情報提供を行っております。この学術大会もそのひとつであり、会員の研鑽の場として また歯科衛生士業務の多様化に伴う社会の要望に対応できる歯科衛生士を目指すべく、各々が取り組みを発表いたします。個々が目標を立て未来を見つめる有意義な場となるよう多くの歯科衛生士にご参加いただければ幸いです。

記

発表 平成31年2月17日(日) 10:30~12:00
*ポスター掲示は歯科医学大会期間中となります。

会場 第1ファッション展示場

発表者および演題(共同演者につきましてはポスターをご参照ください)

- | | |
|------------------------------------|--------|
| 1. 歯科衛生士自主勉強会「でんでん会」での取り組み | 堀場 直美 |
| 2. 災害時の口腔ケアの重要性～病院祭での認知度調査～ | 礫石 幸子 |
| 3. 豊橋市在宅要介護者訪問歯科健康診査事業の報告 | 榊原 裕子 |
| 3. 口腔衛生への関心に乏しい腎移植前患者に対する口腔衛生管理の一例 | 小宮山 実里 |
| ○「専門的口腔ケア対応人材育成研修 第13期生 症例発表」 | 北川 愛華 |
| ○「専門的口腔ケア対応人材育成研修 第13期生 症例発表」 | 水野 淳子 |
| ○「専門的口腔ケア対応人材育成研修 第13期生 症例発表」 | 杉江 知美 |

要旨

1. 「歯科衛生士自主勉強会『でんでん会』での取り組み」

○堀場 直美 (でんでんの会)

歯科衛生士としての就業は多岐に渡る、そのため同じ職種でありながらお互いの問題点を共有することが不可能な面が多々あり不都合を感じていた。そこで有志により自主勉強会「でんでん会」を発足し、個々の歯科衛生士としての資質向上と、横の連携を密にすることを目的として活動を始めた。その結果、参加者がそれぞれの業務内容を知り、日々の仕事に役立つ知識を得ることができた。また、7年に渡る勉強会活動の中で取り組むべき内容を明確にし少しでも社会のために貢献できる事があればと考えている。

2. 「災害時の口腔ケアの重要性～病院祭での認知度調査～」

○礫石 幸子 (名古屋第一赤十字病院 歯科口腔外科)

近年、災害時の口腔ケアの重要性が注目されている。当院では毎年、地域住民との懇親を目的として病院祭を開催している。歯科のブースでは衛生管理を中心とした災害時の口

腔ケア方法について指導・アンケート調査を行った。結果と今後の課題について報告する。

3. 「豊橋市在宅要介護者訪問歯科健康診査事業の報告」

○榊原 裕子 (愛知県歯科衛生士会 三河東部支部)

要介護高齢者の人数は年々増加しており、誤嚥性肺炎や全身疾患等の予防のための在宅における歯科の需要も高まっている。しかし、在宅の要介護高齢者の口腔内の現状はあまり知られていない。豊橋市では平成29年度に市から委託を受けた豊橋市歯科医師会が、愛知県歯科衛生士会三河東部支部の歯科衛生士と、介護支援専門員同席で要介護度3～5の方を在宅訪問し歯科健康診査、口腔ケアを実施した。今回この歯科健康診査事業の結果と歯科衛生士会としての今後の課題を報告する。

4. 「口腔衛生への関心の乏しい腎移植前患者に対する口腔衛生管理の一例」

○小宮山 実里 (藤田保健衛生大学病院歯科・口腔外科)

腎移植では永続的な免疫抑制療法が行われ生涯を通じた感染予防が必要となる。症例は36歳男性。腎移植前の口腔内精査目的にて歯科受診し、薬剤性歯肉増殖および中等度慢性歯周炎と診断。患者は口腔内への関心が乏しく、腎移植と口腔環境との関連性について理解していなかった。周術期の心身の変化に合わせ、口腔環境の改善を目標に動機付けと視覚的なフィードバックを行った結果、患者の意識変化と口腔衛生状態の改善が得られた。

* 「専門的口腔ケア対応人材育成研修 第13期生 症例発表」

これは、障がい者や高齢者など特別な支援が必要な方に対し、高い口腔保健支援ができる歯科衛生士を育成するための愛知県歯科衛生士会主催研修である(詳細は、愛知県歯科衛生士会ホームページ参照)。今年度は「ベーシック・Bコース(有病者・在宅コース)」受講生より課題報告をする。以下は本研修受講動機である。

○北川 愛華

平成29年より、歯科衛生士免許を取得し名古屋南歯科保健医療センターで勤務している。障害児(者)はとても繊細である。日々の歯科診療の中で、疑問に思うことや不安に思うことは絶えない。しかし、経験の浅い私も患者からみると一歯科衛生士であることに変わりはない。患者に安心して歯科診療を受けて頂く為には専門的な知識を自ら得ていかなければならないと考え、人材育成研修を受ける経緯に至った。

○水野 淳子

急性期・回復期病棟を持つ病院の歯科口腔外科に勤務し、周術期口腔機能管理や入院患者の口腔ケアに携わっているが、個々の患者への適切な対応や、看護師・リハビリスタッフへの口腔ケア指導、連携ができていないか疑問に思うことがある。それを解決することができる知識・技術を得るために当研修に参加した。また、地域包括ケアシステムの構築に貢献し、患者の気持ちに寄り添った質の高い支援ができるようになりたいと考える。

○杉江 知美

歯科標榜のない急性期病院で、歯科衛生士として主に病棟で口腔ケアを行っている。今回の研修参加により、摂食嚥下の評価や訓練、多職種との連携、リスク管理を学びたい。さらに、知識を深めることで多角的に柔軟な対応ができる力を身に付け、患者に寄り添った支援ができるようになり、多職種にも情報提供できるよう見聞を広めたいと考える。

* 発表時間内に会場にお越しの方に先着順に抄録をお配りします。

16日(土) 午後2時

K3マウスガード、K3W スプリントのご紹介

(一社)愛知県歯科技工士会

理事(広報部) 土井 明人

ボクシングから始まったとされるマウスガードですが、現在では、装着の義務化や推奨が増えてきています。しかし、スポーツ競技人口に対しての装着比率は低いと思います。スポーツの種類によって、マウスガードへの付与すべき機能や形態があることは理解できますが、それ以上にスポーツ医学やスポーツ歯科医学に入っていかなばならぬとも考えています。また、マウスガードにはファッション性も求められつつあり、色や柄、絵や文字などの要望もございます。

今回のK3マウスガードとは(有)デンタルエイドが考案、開発した圧痕器(スタンプ)を使用し顎位(圧痕)の付与されたマウスガードのことをいいます。また、ほぼ同じ顎位で製作するK3Wスプリントとは、無呼吸症候群歯科的(気道確保)装置のことをいいます。

今回、ポリオレフィン樹脂を使用しカラーリング加工、ネーム・ロゴマーク埋入加工、ラミネート加工等の術式の紹介と、無呼吸症候群歯科装置についてご紹介したいと思います。

17日(日) 午前11時

今、歯科技工士が気づかなければならない事

(一社)愛知県歯科技工士会

常務理事(歯科技工管理部) 今瀬 大輔

歯科技工士にとって自分たちの望みが叶えられ、業界が良くなることは、会員・非会員問わず望んでいること…そうなるための議論を私たちはしているのでしょうか？

歯科技工士問題が叫ばれる昨今、居酒屋でこぼす愚痴は、皆さんでバラバラなのです。そして解決に至らずに終わり、各々の自己責任で食べていっている。いろんな工夫を凝らしながら…。

大切なのは様々な問題の根源に皆が気づき、一致団結して解決することではないでしょうか？

つまり、歯科技工士個々の努力はもちろんのこと、魅力ある職業としてのステータスが上がらなければ、妙な勝ち負けの線引きのようなものが生まれ、業界の底上げにはならず、いくら歯科技工士を目指す若者が増えようとも、その受け皿が整わなければ離職率は下がらないと考えます。

本講演では、そもそも諸悪の根源とは何なのか？よくよく考えたらこうした方がいいのではないか？という「気づかなければならない事」に歯科技工士一人一人が気づくことを啓蒙したいと思います。

歯科技工士のみならず、歯科業界全ての方々にご視聴いただければ幸いです。

第33回デンタルファミリー余技総合展 によせて



愛 歯 余 技 ク ラ ブ
会 長 杉 山 乘 也

本年も愛知県歯科医学大会・併設中部日本デンタルショーと同時に、デンタルファミリー余技総合展を開催いたします。第33回目を迎えることができましたことは出展者一同の誇りでもあり、これらの作品が歯科医学大会、並びに中部日本デンタルショーに華を添えることができましたら幸甚です。

この展覧会はその名の通り、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士、歯科助手、歯科材料商、歯学教育機関、メーカー、その他歯科関係の皆様と家族の余暇の作品を展覧いたします。過去には、日本画、油彩画、水彩画、水墨画、俳画、書道、彫刻、写真、陶芸、工芸、手芸、生花、魚拓、盆石、盆栽、ドライフラワー、アートフラワー、絵手紙等を展覧いたしました。今回も小品から時間をかけた大作まで、忙しい合間にこつこつと製作に取り組んだ作品を展覧いたします。

歯科医学大会にご参加の皆さまには是非とも余技総合展コーナーにお立ち寄り下さい。また17日（日曜日11:00～15:00）には茶席を設けます。ご観覧と共に「憩いの場」、「交流の場」としてご利用下さい。

デンタルファミリー余技総合展を催すにあたりまして、愛知県歯科医師会、愛知県歯科技工士会、愛知県歯科衛生士会、学校関係者、会場設営にご尽力いただきました、東海歯科用品協同組合をはじめ役員の皆様、そしてとりわけ出展者の皆様はこの場をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。

